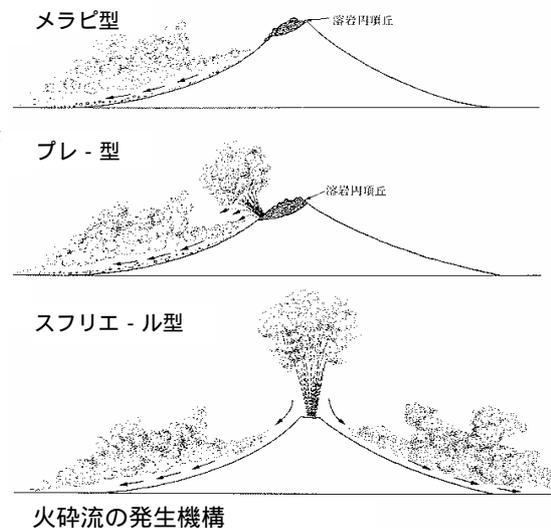


【火砕流】

火砕流は火山灰や岩塊、火山ガス等が一体となって急速に流下する現象で、速度は時速数十 km から数百 km、温度は数百 にも達します。大規模な場合は地形の起伏にかかわらず広範囲に広がり、森林や家等を埋没、破壊、焼失させ、破壊力が大きく、極めて恐ろしい火山現象です。火砕サージは火砕流本体より広範囲に広がるより気体に富んだ流れで、高温の爆風と言えるものです。これらの火山現象は、雲仙普賢岳の噴火によって日本では広く知られるようになりました。雲仙普賢岳で数多く発生した火砕流は、規模としては小規模なものでしたが、大きな被害をもたらしました。小規模火砕流はその発生原因などにより以下のように分類されています。

- ・ 成長中の溶岩ドームの一部が不安定になり、崩れるとき破碎して山の斜面を一方に下り降りて発生するのをメラピ型といいます。1990年(平成2年)の噴火後、雲仙普賢岳で発生した火砕流の大部分はメラピ型です。
- ・ 成長中の溶岩ドームが爆発して山の斜面を一方に下り降りて発生するのをプレー型といいます。
- ・ 火砕物が火口から上空に吹き上げてから崩落したり、直接火口から火砕流が噴きこぼれるようにして山体の全方向に流れ落ちて発生するものをスフリエール型といいます。

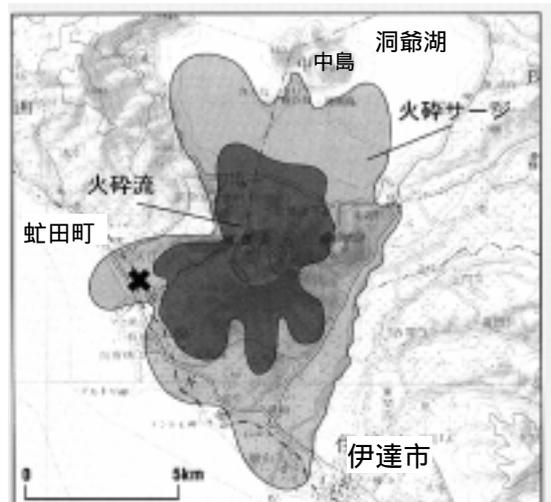


さらに規模が大きなものは中間型火砕流と呼ばれ、火口から立ち上がった噴煙柱の一部が崩れて火砕流となり山体の表面を流下します。北海道では駒ヶ岳、樽前山で歴史時代に繰り返し発生しています。また、大規模火砕流ではカルデラを形成することもあります。

北海道の主な火山では、防災の備えとしてハザードマップが作成されています。その中では火砕流の発生についても想定されています。災害の予想される地域では火山が噴火してから慌てないためにも目に付くところに掲示するか保管して下さい。また、火山に異常が発生した場合は気象台から火山情報が随時発表されます。特に危険な火山現象である火砕流等の発生や恐れのある場合は緊急火山情報を発表することとしています。火山周辺では人的被害が予想されますので速やかに避難してください。

参考文献

- 宇井忠英[編]：火山噴火と災害
- 有珠山火山防災マップ：国際航業株式会社



文政火砕流(1822年)の分布 ×印は当時のアプタ  
【藤井(1988)「有珠山の噴火予測・災害予測および防災の問題」より】

有珠山における過去の火砕流の分布